

峡南教育事務所Newsletter



かけはし

第198号
2025年7月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからも御覧になれます。(QRコード)



南巨摩合同庁舎(合庁)

目次

- | | |
|---|---|
| R7年度 地推協理事会・総会
人権講演会
教育フォーラムのご案内 | 1 |
| ことぶき勸学院だより
暮らしの経済、地域学習
地域貢献、フィールドワークの基礎知識 | 2 |
| 早川南小学校器楽合奏 | 3 |
| 峡南地域砂防移動教室
増穂南小学校・栄小学校 | |
| 思春期体験学習
富士川中学校 | 4 |
| 第2回 幼保小連携・接続研修会
地域をつなぐ
幼保小連携・接続研修会 | |

市川大門町型マンホール鉄蓋



7月も中旬となりました。
「地球沸騰化の時代」を強く感じる酷暑の日々が今年の夏も続きそうです。水分・塩分補給などをこまめに行い、毎日を健康的に過ごしましょう！

令和七年度 峡南地域教育推進連絡協議会(地推協) 第一回理事会・総会開催

令和七年度 理事会・総会

六月二日(月)南巨摩合同庁舎にて理事会、七月四日(金)身延町総合文化会館ホールにて総会が行われました。令和六年度の事業・決算報告、令和七年度の新役員や事業計画・予算等について慎重な審議が行われ、承認されました。

峡南地域教育推進連絡協議会は略称を「地推協(ちすいきょう)」といい、「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンに異校種連携や地域関連の事業等を幅広く推進する組織です。峡南地域最大の教育協議会として、地域の連携強化や学習機会の充実を図る中で望ましい教育環境・社会環境作りを目指し、教育に関する各種講演会の開催、地域教育情報誌「かけはし」や教育相談リーフレットの発行など、様々な活動を行っています。

今年度も、望月公隆新会長を中心に、峡南地域の子どもたちの健やかな育成に貢献し、峡南地域の教育を支えていきたいと思っております。

令和7年度地推協正副会長(敬称略)

会長

望月 公隆(峡南地区教育委員会連合会 会長)

副会長

馬場 泰(峡南地区教育委員会連合会 副会長)

井上 敬典(峡南地区教育委員会連合会 副会長)

丸山 淳(峡南地区高等学校3校 校長代表)

深澤 祐輔(峡南PTA協議会 会長)



望月 公隆 会長

令和7年度 峡南地域教育推進連絡協議会 人権講演会

こどものミカタ

～こどもの味方になりたい、私の見方～



地推協の総会に続き、こどものミカタ～こどもの味方になりたい、私の見方～

『ミカタ』をテーマに、中央児童相談所の芦沢茂喜さんを講師に招き、人権講演会を実施しました。

講演では、「ひきこもりは八十年代後半から現在に至るまで、不登校→ニート→精神保健→長期化・高齢化→貧困と同じ対象者に違いうラベルを貼っているだけで、根本的には変化していない。この再生産を止めることが必要である」と、学校を卒業し、年齢を重ねると、関わる理由が失われることから、学校の存在は大きい「原因を探すのではなく、関係を見ることの方が大切である」と支援の三箇条は①一定のリズムで訪問・②正論は言わない(正論はナイフ)③ゴールを

峡南地域教育フォーラムのご案内

8月20日(水) 14:00～受付

身延町総合文化会館(ホール)

○講演

『人と夢を売ろう』

北杜市ひまわり市場

代表取締役 那波 秀和 氏

ことぶき勸学院だより

～地域学習・地域貢献～

ことぶき勸学院では、様々な学びの中に、「地域を知る」、「地域学習・地域貢献」といった地域に関わる講座があります。峡南教室では毎年、一・二年生合同で富士川クラフトパークにて地域貢献活動を行っています。

◎暮らしの経済(一年生)

五月十三日(火)に「知識を深める 経済① 暮らしの経済」の講座が開かれました。山梨中央銀行経営コンサルティング株式会社より、小澤陽介さんを講師に招き、「山梨を再発見する」をテーマにお話いただきました。

講義は、Ⅰ山梨県の産業構造、Ⅱ山梨県経済の動向と暮らしの経済、Ⅲ山梨県の課題・魅力・可能性の3つのパートに分かれており、クイズ形式のスライドも交えながら、様々なデータに基づき、山梨県の魅力や可能性について詳細に説明していただきました。暮らしの経済の中では、受講者に関心の高い「老後の暮らしとお金」についても触れられ、「人生の目的は『お金持ち』になることではなく、『幸せもち』になることであり、一番大切なことは思い出を作ることではないか」というお話があり、受講者も深く

傾かれています。また、人口減少が続いている山梨県にも、視点を変えれば「宝物」と思えるものが普通の生活の中にたくさん埋もれており、私たち県民がその魅力や強みを認識し、上手に活用することで、山梨をさらに魅力的にし、交流人口や定住人口の増加につなげられるとお話されました。山梨を魅力的なふるさとにするためには、「なぜできないのか?」ではなく、「どうすればできるだろうか?」と、住民である私たち自身が前向きに考えていくことが重要であると改めて感じました。

◎峡南地域学習(二年生)

五月十六日

(金)に「森の学び舎」顧問の片田駿三さんと峡南地域に移住して様々な活動をしている六名の方を講師としてお招きし、お話を伺いました。



片田さんは「この勸学院での学びの経験が、今の自分の活動につながっている」と述べられ、ふるさとである峡南地域が抱える多くの問題について、「自分ひとりではできないが、隣人を信じて、皆

でつながり、できる活動が続いていくことが大切だ」と熱弁を振るわれました。その後、他地域から移住して峡南地域で活躍されている六名(うどん笑里店主・山本康憲さん、フリーランス編集ライター・串田裕梨さん、キックデトックススケーラー店主・瀧本章子さん、みろく整体院・鈴木美也子さん、身延町観光大使・高橋謙二さん、農業従事者・小林あゆみさん)から、峡南地域に移住した経緯や現在の活動について、お話いただきました。



講師の皆さんのお話はどれも「南山梨(峡南地域をブランドイングした名称)を盛り上げて行きたいという熱い思いが感じられるものであり、知っているつもりになっていた山梨の魅力に改めて気づかされた講義となりました。

◎富士川クラフトパーク除草作業(一・二年生合同)

五月二十三日(金)に、地域貢献活動の一環として、一・二年生合同で、富士川クラフトパーク



内のバラ園の除草作業を行いました。当日は、作業を行うのにちょうどよい曇り空で、学年ごと、班ごとに分かれ、途中休憩を挟みながら一時間半ほど作業を

行いました。あつという間にバラの根元付近の草がきれいになくなり、来園者からも感謝の言葉をかけられ、非常に充実感のある地域貢献活動を行うことができました。

◎フィールドワークの基礎知識(二年生)

六月六日(金)に、山梨大学准教授の菊池淑人氏による「フィールドワークの基礎知識」をテーマにした講座が開かれました。

世界や日本の複数の地域を例に挙げながら、地域の資源を磨き上げて「資源化」する方法や「文化的景観の見方」等を丁寧に説明いただきました。その後、地域をより深く知るために必要なフィールドワーク(地域調査)の基礎知識についても教えていただきました。フィールドワークは「あるく・みる・きく」が基本ですが、何を目的に、どの範囲を、どのように調べるといふ事前準備が大切であり、地図は地域の今昔を知ることができ、フィールドワークの必須道具であることなどを学びました。特に大正から昭和に発行された甲府の実際の地図を例に、い



かに地域を立体的に見るかというお話は大変興味深いもので、受講者も皆大きく頷きながら熱心に説明に聞き入っている様子が見られました。

早川南小学校器楽合奏

～第四十五回 早川町山菜まつり～

五月三日(土)に早川町の町民スポーツ広場において、第四十五回早川町山菜まつりが開催されました。前日は終日激しい雨が降り続き、雷も鳴る荒れ模様の天気、開催について心配されましたが、当日は一転して陽光がまぶしいほどの晴天に恵まれました。他県からの来場者も多く見られ、早朝から多くの人で賑わいを見せていました。

この山菜まつりでは、地元の早川南小学校の児童による器楽合奏のステージパフォーマンスが恒例となっています。お話を伺った永井伸二校長によると、昭和四十六年以来、児童に自信や誇りを持たせ、音楽の感性を育てていくことを目指して、吹奏楽活動を教育の中に取り入れてきた歴史があるとのこと。令和五年度からは、児童数の減少により、吹奏楽から器楽合奏へと音楽活動の移行を図って新しい一歩を踏み出しました。今年度はその三年目に当たります。

演奏前の朝の会では、バンドマスターの六年生が「去年からずっとこのまつりに向けて取り組んできました。今日は本番です。今まで練習してきたことを精一杯出して、まつりを盛り上げて行きましょう。」とみんなを力強く鼓舞し、児童・教職員で円陣を組み、



ステージへと向かいました。今年度の山菜まつりでは、児童十名(全校児童数は十三名)と教職員九名がお揃いのTシャツを身にまとい、「僕らまた」「早川南小学校校歌」の二曲をまず演奏し、最後は早川南小学校のテーマ曲である「銀河鉄道999」を披露しました。真剣な表情でひたむきに演奏に取り組む姿は素晴らしく、来場者の方々から大きな拍手が送られていました。

永井校長はこの器楽合奏について「難しい演奏が練習によってできることによつて、自己肯定感を高めて欲しい。また地域の人や町外の人に、早川南小学校の子どもたちの頑張りや素晴らしさを伝えたい。」とおっしゃっていました。演奏を終えた後、児童からは「一生懸命頑張った。」との感想が聞かれ、バンドマスターの六年生は「これが六回目の山菜まつりでの演奏だけど、今年が一番良かった。」と感慨深げに語ってくれました。

この合奏は、保護者の方々が楽器の運搬などにも携わっており、児童、教職員、保護者、地域の人々がみんなで作りに上げている様子が見られました。地域の宝である子どもたちのために、今後も末長く続けて欲しい行事だと強く感じました。



嶺南地域 砂防移動教室

～増穂南小学校・栄小学校～

国土交通省の「土砂災害防止月間」にあわせて、山梨県では、毎年六月に小学校高学年を対象に砂防移動教室が行われています。今年度は増穂南小学校と栄小学校にて実施されました。

増穂南小学校では、六月十六日(月)に嶺南建設事務所から五名の職員が来校し、児童四名が、栄小学校では、六月十七日(火)に同事務所の身延支所から三名の職員が来校し、児童二十一名が学びました。

最初に嶺南建設事務所の職員から、実際に県内で起こった過去の大雨災害の写真や動画等を見ながら土砂災害(崖崩れ・地滑り・土石流)についての説明を受けました。また、それぞれの校区のハザードマップを確認し、危険な場所、災害発生時の逃げ方、災害を防ぐ方法などについても学びました。

説明後、ビー玉を土石流にみたてた土石流実験模型を用いて、



砂防堰堤の働きを学ぶ実験とペットボトルを利用した簡易雨量計の作成を行いました。実験では、砂防堰堤がない場合とある場合で、土石流が生じたら、下流の町はどうなるかを予想し、土石流にみたてたビー玉を流してその結果を確認しました。非常に良くできたモデルで、子どもたちは砂防堰堤によって被害を抑えられることを体験的に理解できたようでした。簡易雨量計は、ペットボトルに規定量ずつ水を入れ、目盛りをつける作業を繰り返して雨量計を作成するというものですが、みんな集中して取り組み、多くの児童が短時間で完成させていました。



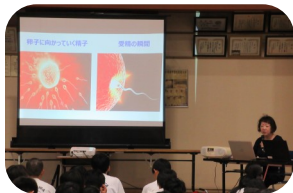
児童からは、「土石流は自分が思っていたよりも速い速度でとても驚いた」や「流域治水について理解できた。今日学んだことを家族とも話したい」といった感想が聞かれました。土砂災害は決して他人事ではありません。今回の学びを今後の防災にぜひ活かしてほしいと思います。

思春期体験学習 富士川中学校三年生

六月二十一日(土)と七月八日(火)・九日(水)に、富士川中学校の三年生を対象に、思春期体験学習が実施されました。今年度は、講義と体験学習の二部構成で実施され、六月は学校と地域や保護者の連携による「親子学びDay」に合わせた講義が、七月は家庭科の時間に実際に妊婦さんや赤ちゃんを招いた体験学習が行われました。

六月の講義では、南アルプス市で助産師・思春期保健相談士として働く中込たつ子さん、富士川町の子育て支援課の保健師・横内幸子さん、飯田千尋さんから①命の始まりと胎児の成長・誕生後の成長について②ペアで相手の良いところを褒め合うワークシヨップ③性的同意やデート

講義後、生徒からのお礼の言葉には「普段は聞きにくい性の内容もあったので、とても勉強になった。自分の意見をはっきりと伝えることも大切だと思った」「中途



半端な知識しかなかったの
で、正しい知識を教えてもら
いとても勉強になった」等の
感想が聞かれました。

七月の体験学習では、重さ
約十キロの妊娠シミュレー
ターを装着して妊娠を疑似体
験し、赤ちゃん人形を用いて
抱き方の練習も行いました。
その後、妊婦さんへのインタ
ビューを行い、最後は実際に
赤ちゃんを順番に抱っこして



赤ちゃんとお母さんとの交
流を図りました。人形ではな
い「本物の赤ちゃん」のかわ
いさに魅了され、多くの生徒
が終了時間間際まで交流を楽
しんでいました。

この学習会を通じて、生徒
たちは様々なことを感じ、考
えたことと思います。思春期
という心と体が大きく成長し
変化するこの時期に、他者に
対する思いやりを持ち、命の
尊さについて学ぶことは非常
に意義のあることだと考えま
す。事務所では学校・行政・
地域の人々と連携し、これか
らもうこうした学びの機会を
作っていききたいと思っています。

第二回幼保小連携・接続研修会 地域をつなぐ 幼保小連携・接続研修会

六月十一日(水)に南巨摩合同庁
舎にて、第二回幼保小連携・接続研
修会が実施されました。この研修会
は、各町の実態に即した「*幼保小
の架け橋プログラム」の取組への理
解を深め、「幼保小の架け橋プログ
ラム」の促進を図ることを目的に、
やまなし幼児教育センターが主催し
たものです。

はじめに、やまなし幼児教育セン
ターの秋田里美・指導主事から、県
全体の取組状況や課題について説明
がありました。幼児教育施設・小学
校とともにこのプログラムに対する理
解が不十分であること、また市町村
の教育委員会では担当者の不在やカ
リキュラムの把握ができていない等
の課題が挙げられ、今後は研修会の
充実や行政のサポートを含む協働体
制の整備が求められることなどが示
されました。

続いて、市川南小学校の土井大輔
教頭から実践発表がありました。市
川三郷町では、町のふるさと学習と
キャリア教育を、学校と地域が連携
して行う「みさと学」を進めていま
す。その取組の中で、町内の全ての
公立・私立の幼児教育施設と小学校
が参加する保幼小連携学習会が行わ
れており、「架け橋プログラム」につ
いて理解を深め、幼保小の相互理
解を図る取組が行われていると説明
がありました。発表後、山梨大学の

大野歩教授から「市川三郷町教育委員会
による『みさと学』という既存の教育資
源を有効に活用し、幼保小連携・接続の
会議に、年長と一年生の担当者だけでな
く、施設・学校の管理職が参加している
点が大変評価できる。今後は施設・学校
で相互の実践の観察機会を増やし、さら
に取組を進めてほしい」と助言をいただ
きました。

各町ごとの情報交換会では、子どもたちの現状と期
待する子ども像について意
見交換し、今後「架け橋プロ
グラム」の促進に向けて
どのような取組ができそう
かについて話し合われまし
た。

参加者からは「普段幼保
小の関係者から現場の声を
聞く機会がなかったため、
今回様々な立場の方の声を
聞けて大変良い機会でした。今後もこ
ういう場が持てたらと思います」とい
った感想が寄せられました。

今後は各町で、地域の特色を生かしな
がら幼保小の連携・接続を進め、子ども
の健やかな成長のために地域で一丸と
なって取り組んでほしいと願います。



「*幼保小の架け橋プログラム」とは
子供に関わる大人が立場を越えて連携
し、架け橋期(義務教育開始前後の五歳
児から小学校一年生の二年間)にふさわ
しい主体的・対話的で深い学びの実現を
図り、一人一人の多様性に配慮した上で
全ての子供に学びや生活の基盤を育むこ
とを目指す取組のこと。